

環境活動レポート

活動期間 平成27年8月～平成28年7月



発行：平成28年11月10日

総合建設業
竹花工業株式会社

目次

環境方針	1
組織の概要	2
組織図	3
再資源化(処理フロー)	4
主要な環境活動計画の内容	5
環境目標とその実績及び評価【本社】	6
環境目標とその実績及び評価【駒ヶ根支店】	7
環境目標とその実績及び評価【駒ヶ根工場】	8
主な環境活動の内容	9
環境関連法規への違反、訴訟の有無	13
次年度の環境目標・取り組み内容	14
総評	15

環境方針

1.環境理念

高い技術、誠実、迅速を常に信条として社業を通じ社会に貢献し

環境保全活動に全社員で取り組みます。

2.環境方針

- 1) 省資源・省エネルギーに取り組み、CO₂排出量を削減する。
- 2) 分別の徹底により、リサイクルの推進を図り、廃棄物を削減する。
- 3) グリーン購入を推進する。
- 4) 環境に配慮した建築物・工作物等の提案を行う。
- 5) 地域社会における環境汚染の予防及び拡大防止に努める。
- 6) 環境に関連する法規制を遵守する。
- 7) 本方針を全社員に周知し、継続的な維持改善を行い環境保全に努める。

平成23年9月10日 制定

竹花工業株式会社

代表取締役 唐澤 正幸

組織の概要

(1) 事業所及び代表者名

竹花工業株式会社
代表取締役 唐澤 正幸

(2) 所在地

本社 長野県小諸市南町二丁目6番10号
住宅事業部 長野県小諸市南町三丁目9番19号
小諸生コン工場 長野県小諸市甲1816-1
工事施工部 長野県小諸市甲狐穴1818-1
田中支店 長野県東御市県518番地
軽井沢営業所 長野県北佐久郡軽井沢町大字長倉字東屋敷浦4630-18
北軽井沢支店 群馬県吾妻郡長野原町大字応桑819-3番地
駒ヶ根支店 長野県駒ヶ根市中沢12175番地
駒ヶ根工場 長野県駒ヶ根市中沢3392番地

(3) 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者 土木課長 峰村 修
担当者 経理課長 小宮山 剛
連絡先 TEL 0267 (22) 1750 FAX 0267 (23) 3969
HP www.takehanakogyo.co.jp E-mail inho@takehanakogyo.co.jp

(4) 事業内容

総合建設業 国土交通大臣許可（特・般）第3322号

営業種目： 建築工事、土木工事、管工事、とび・土工工事、石工事、ほ装工事、造園工事
鋼構造物工事、しゅんせつ工事、水道施設工事
電気工事、大工工事、屋根工事、内装仕上工事、タイル・れんが・ブロック工事
生コン等の製造販売、住宅販売、コンクリート補修、砂利・砂・砕石の採取販売
産業廃棄物収集運搬、産業廃棄物中間処理(破碎)

一級建築士事務所 長野県知事登録（佐久）I第86095号

宅地建物取引業許可 長野県知事 (12)第1471号

産業廃棄物処分業許可 長野県知事 2040029517

許可年月日 平成27年4月25日 有効年月日 平成32年4月24日

産業廃棄物収集運搬業許可 長野県知事 2000029517

許可年月日 平成27年4月25日 有効年月日 平成32年4月24日

※ 但し、本社においては、産業廃棄物の処分を業としては行っておりません。

(5) 産業廃棄物処理施設等の状況 許可番号 長野県知事 2040029517

【中間処理施設所在地】 長野県駒ヶ根市中沢3242、3243

がれき類の破碎施設 固定式:RC-30 固定式:SAP-4K 処理能力(720t/日)

がれき類の破碎施設 固定式 処理能力(624t/日)

アスコン廃材 6,120.66t 二次製品廃材 718.45t

コンクリート廃材(無筋) 5,071.87t コンクリート廃材(有筋) 1,392.54t

(6) 産業廃棄物収集運搬の状況

収集運搬実績 業としての実績 0 t 自社収集運搬実績 6926 t

(7) 事業の規模

設立年月日 昭和38年1月30日

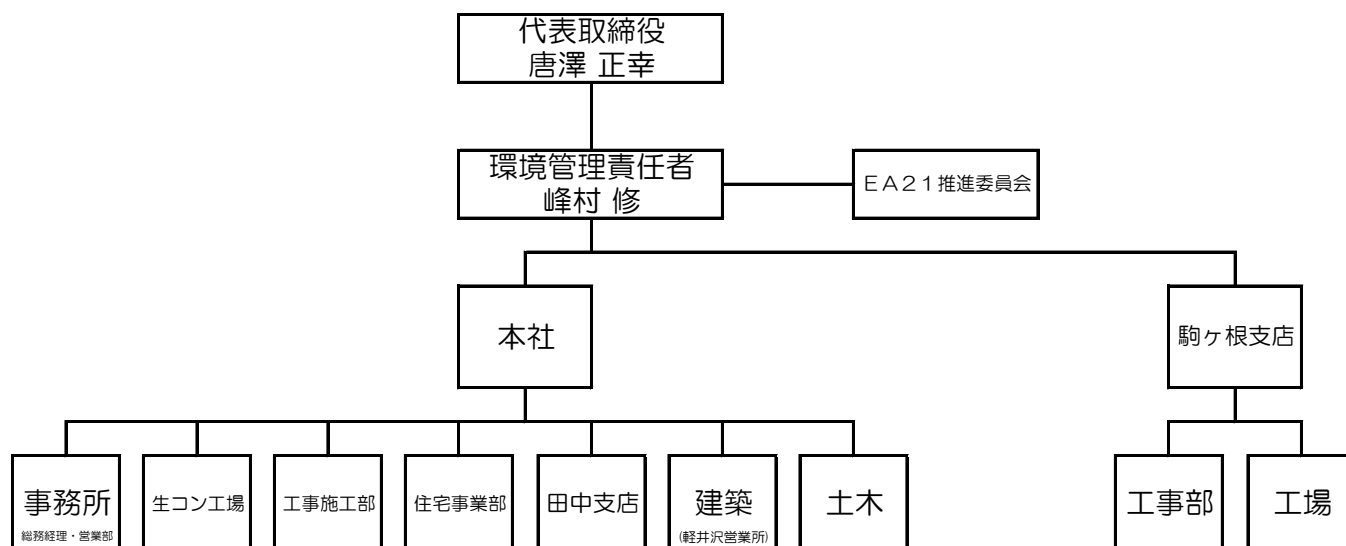
資本金 9,600万円（授權資本1億5,600万円）

売上高 48億2,725万円（第54期 H27.8.1～H28.7.31）

従業員数 146名

本社建物 鉄骨造陸屋根5階建て 延べ床面積 1,916.98㎡

平成27年度 環境経営システム組織図

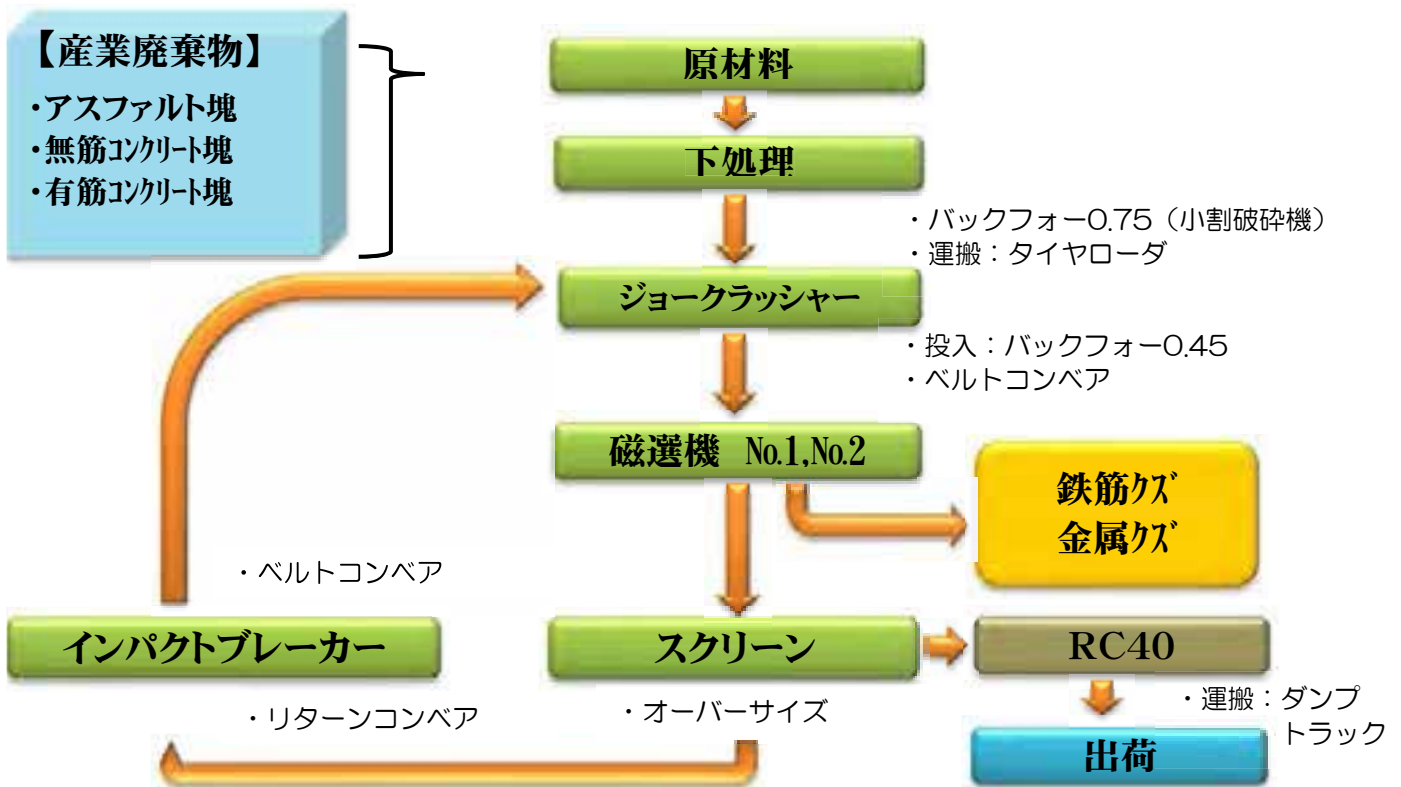


環境経営システム 役割・責任・権限表

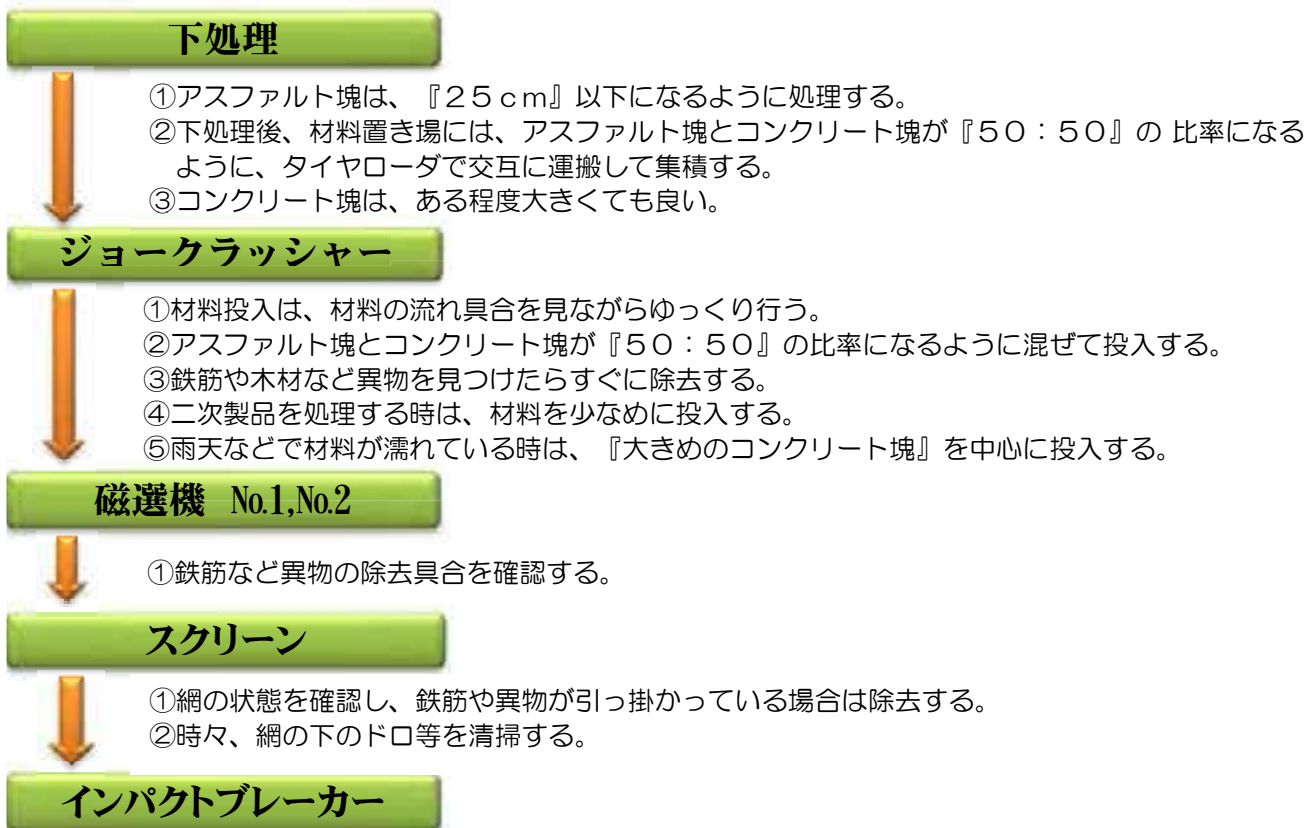
	役割・責任・権限
代表者 (社長)	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営に関する統括責任。 環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 環境管理責任者を任命。 環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知。 環境目標・環境活動計画書を承認。 代表者による全体の評価と見直しを実施。 環境活動レポートの承認。
環境管理 責任者	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営システムの構築、実施、管理。 環境関連法規等の取りまとめ票を承認。 環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 環境目標・環境活動計画書を確認。 環境活動の取組結果を代表者へ報告。 環境活動レポートの確認。
EA21 推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> 環境管理責任者の補佐。 環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 環境目標、環境活動計画書原案の作成。 環境活動の実績集計。 環境関連法規等取りまとめ表の作成。 環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 環境活動レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付）
部門長	<ul style="list-style-type: none"> 自部門における環境経営システムの実施。 自部門における環境方針の周知。 自部門の従業員に対する教育訓練の実施。 自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 特定された項目の手順書作成及び運用管理。 自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成テスト、訓練を実施記録の作成。 自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> 環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

※ 下請負人に於いては、対象外とする。

がれき類の破碎施設作業フロー図



がれき類の破碎施設作業要領書



【処理料金】

形状、数量等により異なりますので、弊社工場 (Tel.0265-82-5275) までお問い合わせ下さい。無料にてお見積りさせていただきます。

【保有する運搬車両】

11 t ダンプ 5台 、 4 t ダンプ 3台 、 2 t ダンプ 4台

平成27年度 主要な環境活動計画の内容

二酸化炭素の削減

- 【電力の削減】 削減率 -1.5%
 - ・昼食時及び不使用部屋消灯
 - ・OA機器の不使用時には電源をOFFにする
 - ・残業時間、夜間照明を必要最小限にする
- 【灯油の削減】 削減率 -1.5%
 - ・長時間不在時は暖房をとめる
- 【重油の削減】 削減率 -1.5%
 - ・生コン工場に於いて、水槽の温度をこまめに確認し、加熱器のスイッチを管理する
 - ・日中はボイラーを止める
- 【都市ガスの削減】 削減率 -1.5%
 - ・不在箇所のエアコン電源OFF
- 【液化石油ガスの削減】 削減率 -1.5%
 - ・沸騰時にすぐ消火
 - ・音の鳴るやかん使用
- 【ガソリン・軽油の削減(自動車、建設機械等の燃料)】 削減率 -1.5%
 - ・エコドライブ・アイドリングストップを実施する
 - ・車両の整備、走行距離の定期的チェックを実施する
 - ・積載オーバーをしない
 - ・車両、機械の定期的整備を実施する
 - ・各現場へ乗り合わせて移動する。

廃棄物

- 【一般廃棄物・建設廃棄物の削減】 削減率 -1.5%
 - ・不要原紙の再利用(両面コピー、裏紙利用)
 - ・分別収集によるリサイクル化の実施
- 【リサイクル化率の向上】 削減率 +0.3%

水

- 【水道水の削減・井戸水の削減】 削減率 -0.3%
 - ・水道水を出しすぎない
 - ・井戸水の使用量把握を行い削減につなげる

グリーン購入

- 【グリーン購入】
 - ・環境に配慮した再生資材等の購入を推進する
 - ・環境に配慮した事務用品等を使用する

化学物質

- 【化学物質使用量の削減】 削減率 -0.3%
 - ・原材料に含まれる化学物質の含有量を把握する

製品

- 【製品への環境配慮】
 - ・環境に配慮した製品を生産又は販売する

※ 基準年【平成24年度】からの削減率を記載

平成27年度 環境目標と実績及び評価【本社】

項目			基準値		平成27年度実績値			中長期目標値		
			平成24年度 H24.8~H25.7		削減目標値	平成27年度 H27.8~H28.7	評価	平成27年度	平成 年度	
二酸化炭素排出量	電力	購入電力 kwh	263,277	▲1.5%	259,328	219,963	○	259,328		
		排出量 kg- CO_2	135,851	▲1.5%	133,813	113,501		133,813	0	
	灯油	使用量 L	14,894	▲1.5%	14,671	5,547	○	14,671		
		排出量 kg- CO_2	37,115	▲1.5%	36,558	13,823		36,559	0	
	重油	使用量 L	10,543	▲1.5%	10,385	4,576	○	10,385		
		排出量 kg- CO_2	28,568	▲1.5%	28,139	12,399		28,140	0	
	都市ガス	使用量 Nm3	5,797	▲1.5%	5,710	5,289	○	5,710		
		排出量 kg- CO_2	12,959	▲1.5%	12,765	11,824		12,765	0	
	LPガス	使用量 Nm3	64	▲1.5%	63	94	×	63		
		排出量 kg- CO_2	192	▲1.5%	189	282		189	0	
	ガソリン	使用量 L	87,500	▲1.5%	86,188	82,115	○	86,188		
		排出量 kg- CO_2	203,145	▲1.5%	200,098	190,643		200,099	0	
	軽油	使用量 L	129,302	▲1.5%	127,362	86,784	○	127,362		
		排出量 kg- CO_2	334,403	▲1.5%	329,387	224,443		329,386	0	
二酸化炭素総排出量		kg- CO_2	752,235	▲1.5%	740,951	566,917	○	740,951	0	
建設一般廃棄物	排出量		t	3,366	▲1.5%	3,316	16,850	×	3,316	
	再資源化量		t	3,164	0		14,159	×	—	—
	リサイクル化率		%	94%	+0.3%	95%	84%	×	96%	
水道水排水量		m ³	9,780	▲0.3%	9,751	12,715	×	9,751		
化学物質使用量		kg	3,600	▲0.3%	3,589	1,689	○	3,589		

※電気使用量によるCO₂排出係数は、中部電力 2012年による 0.516kg/kwhとする

評価

- 二酸化炭素排出量については、活動の取り組みにより、目標を達成することが出来た。特に電力については、太陽光発電設置と、生コン工場のデマンド値管理の効果が出てきている。
- 廃棄物については、解体工事の受注増により、排水量が増加してしまい、目標を達成することが出来なかった。

平成27年度 環境目標と実績及び評価【駒ヶ根支店】

項目			基準値		平成27年度実績値			中長期目標値		
			平成24年度 H24.8~H25.7		削減目標値	平成27年度 H27.8~H28.7	評価	平成27年度	平成	年度
二酸化炭素排出量	電力	購入電力	kwh	32,668	▲1.5%	32,178	30,120	○	32,178	
		排出量	kg-co2	16,857	▲1.5%	16,604	15,542		16,604	
	灯油	使用量	L	2,114	▲1.5%	2,082	2,349	×	2,082	
		排出量	kg-co2	5,268	▲1.5%	5,189	5,854		5,188	
	重油	使用量	L	0	▲1.5%	0	0		0	
		排出量	kg-co2	0	▲1.5%	0	0		0	
	都市ガス	使用量	Nm3	0	▲1.5%	0	0		0	
		排出量	kg-co2	0	▲1.5%	0	0		0	
	LPガス	使用量	Nm3	106	▲1.5%	104	101	○	104	
		排出量	kg-co2	318	▲1.5%	313	303		312	
	ガソリン	使用量	L	14,303	▲1.5%	14,088	11,851	○	14,088	
		排出量	kg-co2	33,207	▲1.5%	32,709	27,514		32,708	
	軽油	使用量	L	24,059	▲1.5%	23,698	20,610	○	23,698	
		排出量	kg-co2	62,222	▲1.5%	61,289	53,302		61,288	
	二酸化炭素総排出量		kg-co2	117,870	▲1.5%	115,939	102,517	○	116,102	
	建設一般廃棄物	排出量	t	11.74	▲1.5%	12	19.40	×	11.56	
再資源化量		t	—	0	—	19.34		—		
リサイクル化率		%	—	+0.3%	95%	99	×	—		
水道水排水量		m³	1,297	▲0.3%	1,293	1,165	○	1,293		
化学物質使用量		kg	0	▲0.3%	0	0		0		

※電気使用量によるCO₂排出係数は、中部電力 2012年による 0.516kg/kwhとする

評価

二酸化炭素排出量は、目標値を達成できたが、廃棄物の排出量については、目標値を達成することは出来なかった。主な要因は、仕事量に起因していると思われる。

平成27年度 環境目標と実績及び評価 【駒ヶ根工場】

項目			基準値		平成27年度実績値			中長期目標値	
			平成24年度 H24.8~H25.7		削減目標値	平成27年度 H27.8~H28.7	評価	平成27年度	平成 年度
二酸化炭素排出量	電力	購入電力 kwh	875,167	▲1.5%	862,039	678,177	○	862,039	
		排出量 kg- CO_2	451,586	▲1.5%	444,812	349,939		444,812	
	灯油	使用量 L	35,436	▲1.5%	34,904	20,660	○	34,904	
		排出量 kg- CO_2	88,304	▲1.5%	86,979	51,483		86,978	
	重油	使用量 L	20,000	▲1.5%	19,700	6,000	○	19,700	
		排出量 kg- CO_2	54,193	▲1.5%	53,380	16,258		53,380	
	都市ガス	使用量 Nm3	0	▲1.5%	0	0	○	0	
		排出量 kg- CO_2	0	▲1.5%	0	0		0	
	LPガス	使用量 Nm3	138	▲1.5%	136	121	○	136	
		排出量 kg- CO_2	414	▲1.5%	408	363		408	
	ガソリン	使用量 L	9,174	▲1.5%	9,036	7,424	○	9,036	
		排出量 kg- CO_2	21,299	▲1.5%	20,979	17,236		20,979	
	軽油	使用量 L	319,478	▲1.5%	314,686	315,094	×	314,686	
		排出量 kg- CO_2	826,240	▲1.5%	813,847	814,902		813,847	
二酸化炭素総排出量		kg- CO_2	1,442,036	▲1.5%	1,420,405	1,250,180	○	1,420,405	
建設一般廃棄物	排出量		t	○	▲1.5%	0	○	0	
	再資源化量		t	—	○			—	
	リサイクル化率		%	—	+0.3%	95%		—	
水道水排水量		m ³	1,919	▲0.3%	1,913	1,172	○	1,913	
化学物質使用量		kg	0	▲0.3%	0	0		0	

※電気使用量によるCO₂排出係数は、中部電力 2012年による 0.516kg/kwhとする

評価

二酸化炭素排出量の目標値を達成することが出来た。
 電力については、デマンドにより電力量の確認を行った。
 また、暖冬の影響により、重油の使用量をおさえる事ができた。
 軽油については、水中ポンプ発電機の電源を電力に変更したので、今後改善されると思われる。

平成27年度 主な環境活動の内容【本社】

【自営防衛訓練の実施】

開催日 平成28年8月24日（水）

時間 午後1時30分～

場所 本社2階・3階・駐車場

- 訓練内容
- 1.通報訓練・・・火災発見者が電話を利用し、消防機関へ119番通報する訓練
 - 2.消火訓練・・・消火器や消火設備について、設置されている位置や性能を確認し、使い方を訓練する。
 - 3.避難訓練・・・避難誘導責任者の指示により避難する訓練
 - 4.訓練後の検証（小諸消防署員にお話を聞く）

訓練終了後、駐車場に参加者全員が集まり、訓練内容や行動が適切だったかなどについて意見を伺い、改善点等は次回の訓練に活かす。



【生コン事業部】

●環境美化運動 年間2回実施

工場周辺のゴミ拾いの実施（1回目） 平成28年1月6日

工場周辺のゴミ拾いの実施（2回目） 平成28年5月16日



【住宅事業部】

●環境美化運動

事務所周辺・分譲地の草刈りの実施 平成28年5月16日



【土木部】

●環境美化運動

工事現場周辺のゴミ拾い 及び 安全パトロール実施 平成27年12月14日



平成27年度 主な環境活動の内容 【駒ヶ根支店】

【工事部】

●環境美化運動 平成27年8月21日

『天竜かっぱ祭り』会場付近となる為、景観美化活動として、土手の草刈りを実施



●環境美化運動 平成28年7月5日

(主) 駒ヶ根長谷線からと市道（会社前）への入口、両側の植木の剪定を実施



●ごみ削減周知活動 平成28年3月9日

紙コップの廃棄量が増加しているため、マイカップ・マイボトル持参を呼びかけるポスターを貼付け、ごみ削減の周知をしました。



●喫煙所の設置・完全分煙化

工事部管理センター内、7/27~7/30工事を行い、喫煙所を設置しました。

工事部内、完全分煙化し作業員の健康管理、及び受動喫煙の防止を呼びかけました。



平成27年度 環境関連法令等一覧表

主な法規制

法規・法令等名称	適用内容・遵守事項	遵守状況
1.廃棄物処理及び清掃に関する法律（廃掃法）	一般廃棄物及び産業廃棄物の管理、排出	遵守
2.騒音規制法	特定建設作業（杭打ち機、削岩機等）の実施届出	遵守
3.振動規制法	特定建設作業（杭打ち機、ブレーカー等）の実施届出	遵守
4.大気汚染防止法	解体・改修工事に伴う特定粉じん等排出作業の届出	遵守
5.建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律（建設リサイクル法）	新築工事及び解体工事の実施の届出	遵守
6.労働安全衛生法	解体・改修工事に伴う石綿等の除去作業の届出	遵守
7.建築基準法	内装工事、空調工事に伴う使用禁止建材の規制等	遵守
8.建設工事公衆災害防止対策要綱	工事全般、解体工事に伴う付近住居者等への周知、塵芥・騒音防止の措置	遵守
9.フロン回収破壊法	解体前に設置有無確認	遵守
10.消防法	危険物保管の指定数量以上の許可申請・届出	遵守
11.廃PCB処理法	保管・処理の状況の届出	遵守
12.水質汚濁防止法	工事用排水、工場排水に伴う規制等中和装置の設置届	遵守
13.浄化槽法	設置、廃止等の届出 法定点検及び、保守の実施等	遵守
14.毒物及び劇物取締法	盗難/漏洩防止 保管施設への表示等	遵守
15.PRTR法	取扱時排出量・移動量の把握等	遵守

- ・ 当社は峰村管理者が中心となり法規の遵守状況について問題が無いことを確認しました。
- 又、過去3年間、違反、訴訟等の無い事を確認致しました。
- ・ 消防署の監査を受けました。

平成27年度 環境目標・取り組み

平成27年8月～平成28年7月

基準年【平成24年度】からの削減目標		取 組 み	取組重点部門
二酸化炭素の削減	電力の削減 -1.5%	1.昼食時及び不使用部屋消灯 2.OA機器の不使用時には電源をOFFにする 3.残業時間、夜間照明を必要最小限にする	各事業所
	灯油の削減 -1.5%	1.長時間不在時は暖房をとめる	各事業所
	重油の削減 -1.5%	1.生コン工場に於いて、水槽の温度をこまめに確認し、加熱器のスイッチを管理する 2.日中はボイラーを止める	生コン事業部
	都市ガスの削減 -1.5%	1.不在箇所のエアコン電源OFF	各事業所
	液化石油ガス(LPG)の削減 -1.5%	1.沸騰時にすぐ消火 2.音の鳴るやかん使用	各事業所
	ガソリンの削減 -1.5%	1.エコドライブ・アイドリングストップを実施する。 2.車両の整備・走行距離の定期的チェックを実施する 3.各現場へ乗り合わせて移動する。	各事業所
	軽油の削減 -1.5%	1.エコドライブ・アイドリングストップを実施する 2.積載オーバーをしない 3.車両・機械の定期的整備を実施する	車両資材部 生コン事業部
廃棄物	一般廃棄物 建設廃棄物の削減 -1.5%	1.不要原紙の再利用（両面コピー、裏紙利用） 2.分別収集によるリサイクル化の実施	各事業所 各現場
	リサイクル化率の 向上 +0.3%		
水使用料の削減 -0.3%		1.水道水を出しすぎない 2.井戸水の使用量把握を行い削減につなげる	生コン事業部 各事業所
化学物質使用量の削減 -0.3%		1.原材料に含まれる化学物質の含有量を把握する	生コン事業部 各現場
グリーン購入		1.環境に配慮した再生資材等の購入を推進する 2.環境に配慮した事務用品等を使用する	各事業所 各現場
製品への環境配慮		1.環境に配慮した製品を生産又は販売する	生コン事業部 各事業所

総 評

昨年末に、小諸市大型の公共建設工事であるごみ処理場の工事をJVの一員として完成させたが、設計施工の工事であり、プラントメーカーの図面と施工に対する意識の違いが大きく、結果として大きな赤字を背負うこととなってしまった。この工事は、会社の経営を揺るがす問題となり、社内外の多くの人に迷惑をかけてしまった。受注時の検証・施工時のチェックについてのシステムの必要性を改めて感じた。類似の事例もあり再発防止を図っていく。

又定年者以外に、退職する人が多くいて大変残念であった。途中入社もあり人員的には大きく変わらなかったが、特定の人に負担をかけることとなってしまった。今後も当社に限らず代理人の不足と職人の高齢化への対応が、業界全体の問題となっていく。

今年度も環境理念・方針のもとで環境活動を行ってきた。

太陽光発電システムについては、本社・駒ヶ根支店の施設も順調に稼働しており、現在は様々お客様の要望により、設置及び計画を実施している。今後も社内における発電システムの増設も検討していきたい。

生コン部門における残コンの再利用による商品化は継続しており、土木の公共事業の減少から民間にシフトした業者もあり、売り上げが28年7月期で908個と依然高い値を示している。品物不足の状態が続いており金型の増設を行った。

今後も会社の活動に関連会社も巻き込む中で、さらに関係する多くの人々への広がりを持った活動としていく。すべての部門の理解を深める中で、排出量の削減、経費の削減に向けての数値目標の提案をおこない部門活動に反映させていく。

法規制を遵守し、削減を意識する活動で成果の上がることを期待したい。

竹花工業株式会社

代表取締役 唐澤 正幸